



お薬の 対応について

主治医から乳幼児に投薬されたくすりは、元来保護者が与えるべきものですが、やむを得ず保護者が与えることができないときは、保護者から依頼を受け所定の「お薬連絡票」を提出いただいた上で、園でも協力させていただいております。責任をもって慎重に対応していくために、次の事項について趣旨をご理解の上、ご協力をお願い致します。

【お預かりする薬について】

- ・ 医療機関からの処方であること
（保護者の判断で持参した薬や市販薬は対応できません）
- ・ 服用薬（粉薬、水薬）は、1回分ずつ持参してください。
※ 1週間以内に薬局で処方されたもの
※ 水薬は、小さな容器に1回分を移して持ってきてください
※ 点眼薬、塗り薬については、容器のままで結構です
- ・ 薬袋、容器には必ず名前を記入してください
- ・ 解熱剤、坐薬、鎮痛剤は原則としてお預かりできません
- ・ 吸入などの医療行為は園では実施できません
- ・ 医療機関で診察を受ける場合は、園に通っていることを医師にお知らせください。



【お薬連絡表について】

- ・園での与薬は、「お薬連絡票」（下記参照）に基づき対応します。
- ・「お薬連絡票」は記入漏れがないようにお願いします。
- ・「お薬連絡票」が無くなってしまった時、忘れた時には登園時に保育士にお声掛けください。その場で記入していただきます。
- ・お薬は「お薬連絡票」と一緒に連絡帳にはさんで持ってきてください。

平成 年 月 日
お薬連絡票
おなまえ

病院名

病名

薬の剤型
・ シロップ ・ 粉 ・ 塗り薬
・ 点眼薬 ・ その他()

薬の内容
・ 抗生物質 ・ 咳止め ・ 鼻水止め
・ 整腸剤 ・ 下痢止め ・ 気管支拡張剤
・ 抗アレルギー薬 ・ 消炎剤 ・ 痒み止め
・ 保湿剤 ・ その他()

服用時間
・ 食前 ・ 食後 ・ 食間

注意事項など
<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">お薬添付箇所</div>

子どもの かかりやすい 感染症

病名	潜伏期間	主な症状	園を休む期間
咽頭結膜熱 (プール熱)	5～6日	発熱、咽頭発赤、咽頭痛、結膜の充血、目やに	症状が消退した後、2日を経過するまで
インフルエンザ	24～48時間	悪寒、突然の高熱、咽頭痛、関節筋肉痛。低年齢児では熱性けいれんを起こすことがある。	解熱後3日を経過し、体力が正常化するまで
結核	10～12日	感染即発病ではなく、年月を経て発病することあり。呼吸器以外全身臓器も侵す。乳幼児期感染では重症化（髄膜炎等）しやすい。	伝染の恐れがなくなるまで
水痘 (みずぼうそう)	11～20日 特に14日	点状発疹、水疱、かさぶたが混在して全身至る所にでる。発熱不定。	すべての発疹が、かさぶたになるまで
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	2～3週間 平均18日	耳下腺の腫れ・痛み、頭痛、発熱（中度）。	耳下腺の腫れが消えるまで
百日咳	6～20日 平均7日	初期の1週間は風邪の様な咳、次いで特に夜間の咳が激しくなり、レブリーゼ、嘔吐、無呼吸、チアノーゼ	特有の咳がなくなるまで
風疹 (三日はしか)	14～21日	発熱と同時に淡紅色の発疹、後頭部、頸部リンパ節の腫れ。発疹は2～3日で消失。	発疹が消えるまで
麻疹 (はしか)	11～13日	発熱、咳、鼻水、目やに等の風邪症状とコプリック斑（口腔内粘膜に白い斑点）、次いで高熱と全身発疹（4～5日）。	解熱後3日を経過するまで
腸管出血性大腸菌感染症	3～5日	腹痛、水様下痢、血便、嘔吐、脱水症。	医師が伝染の恐れがないと認めるまで
しらみ	卵 1週間 幼虫 1～2週間 成虫 3～4週間	耳の後ろ、後頭部のかゆみ、不眠、いらつき。	休まなくてよいが、治療が必要

手足口病	2～7日 特に3日	発熱、口内に痛みを伴う水疱、潰瘍。 てのひら・足の裏・肘・臀部に丘疹、 水疱。	解熱し、体調が回復するまで
伝染性紅斑 (りんご病)	4～15日	風邪症状後、顔面紅斑・両頬と手足に 網目状紅斑	紅斑のみで体調が回復するまで（紅斑が出現する頃には感染力はなくなる）
水いぼ	14～50日	直径1～5mmの半球状で中央にくぼみのあるいぼ	休まなくてよい。 夏季の水浴時は考慮必要。
とびひ	黄色ブドウ球菌は2日。溶血連鎖球菌は10日。	紅斑、水疱が化膿し、びらん・かさぶたをつくる。感染力が強く、急速に広がる。	症状が軽い場合は休まなくてよい。症状がひどい場合は、びらんが乾燥するまで。
ヘルパンギーナ	2～7日	発熱（1日もしくは無し）、口腔内の水疱・潰瘍。食欲不振。	特に決まりはないが、解熱し体調が回復するまで
マイコプラズマ肺炎	10～24日	発熱、頑固な咳（特に夜間）	解熱し症状が消退するまで
ヘルペス性歯肉口内炎	2日～2週間	発熱、唇・口腔内・歯肉に水疱や潰瘍、食欲不振。	特に決まりはないが、体調が回復するまで
感染性胃腸炎	1～3日	冬に多発。 下痢、嘔吐、軽度の発熱。 ノロ：24～48時間で治癒。 ロタ：白色～淡黄色の便（5～6日） アデノ：白色～淡黄色の便（9～12日）	特に決まりはないが症状が消退するまで ※症状が消退しても数週間は便にウイルスの排泄があるため注意
溶連菌感染症	1～7日	咽頭痛、粟粒大の赤い発疹、痒み、咳、頭痛、莓状舌、咽頭発疹、発熱等。	抗生剤治療開始後2～3日経過し、体調が回復するまで

